

原田勝朗さん千恵子さんご夫婦は、千葉県在住の70代。平成31年ころから、夏は気候のいい様似町の移住体験住宅を利用することが増え、千葉県との二拠点生活をスタート。趣味の旅行で長期滞在の楽しみを覚えたという原田さんご夫婦、その延長線上に移住がありました。「移動しない旅行ですね。暮らしの中での人々との触れ合いや生活。家でもここに居ても、やることは変わらない訳ですから」。平成27年、仕事での縁から初めて様似町を訪れました。「塩釜トンネルの先の景色はすごく印象的で、海も山も町もコンパクトで好きなんです」と話す千恵子さん。

その後、様似町の移住体験住宅を利用するようになり、知り合いのバンドの一員としてアポイの火まつりへ参加するなど、地域との交流も図りつつ、ゆっくりとした様似暮らしを楽しんでいるそうです。

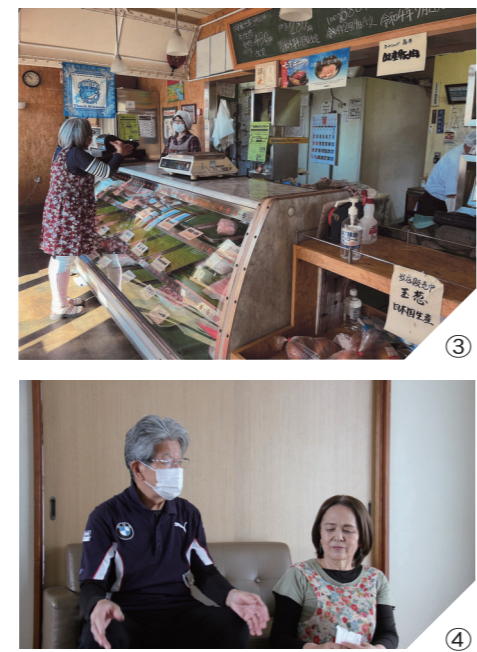
# 移住体験住宅利用者に聞いてみました！

はらだ かつろう ちえこ  
原田 勝朗さん・千恵子さん



**移住体験住宅って？**

様似町では、移住・定住を検討しているかた向けに、町での生活を体験してもらうために家具・家電備え付けの「移住体験住宅」をご用意しています。移住体験住宅は、利用者のかたに町での暮らしを体験してもらうとともに、地域のかたと交流し町の雰囲気を知ってもらう、ということを目的に整備しています。(6月20日現在、住宅3棟のうち原田さん含め2棟が入居中となっています。)



①様似アコースティッククラブ 20周年記念コンサート ②移住体験住宅の畑で  
③近所のお肉屋さんへ買い物に ④移住体験住宅でインタビュー  
⑤アポイの火まつりのステージで歌声披露

## 移住・定住 様似暮らしの 魅力と課題

### 移住体験住宅 での生活

「ここに根をはって生活を楽しんでます。買い物もできるだけ町内で済ませます」と千恵子さん。滞在中は、町外に出ていくことは少なく、自宅にいる時とほとんど変わらない過ごし方をしています。

「町民のかたから新鮮な魚や野菜をいただくこともありまして、もう5年も毎年来ているので、次はいつ来るのなんて言うって待っていてくださるかたもいます」と、日常生活を楽しむ中で、地域のかたがたとの交流も広まってきたと話します。

「近所のかたにあいさつをした時、体験で移住してまずと話す『家が無ければ、うちの2階が空いているからどうぞ』と

言っていたきました」と勝朗さん。受け入れられているような気がして嬉しかったそうです。

### 様似暮らしの 魅力とは

地域の魅力は住んでいる当地人たちには気がつきにくいもの。原田さんご夫婦に、外から見た様似暮らしの魅力について伺ってみると「色々見て回った中でも、やっぱり景色がいいです。すごくコンパクトに海・山を見て過ごすことができる。朝起きて窓から見える山の景色が大好きです。町民のみなさんはあまり意識しないかもしれませんが…。夜は星空がすごく綺麗です。明かりがないから星が読めるんですよ。そういう中で生活できるのが一番の魅力です」と語ってくれました。

### 移住までの課題は

移住体験住宅を利用するようになり、様似町に季節移住を考えた始めたころ「季節移住ですけど、最初はがんばって家を探し

### 最後に

最後に、町民のかたへ向けて原田さんご夫婦よりメッセージをいただきました。

「今回、役場のかたがたに名札を作っていただきました。これを付けて、よく2人で目的もなく緑町周辺を散策しています。あの家いいねとか話しながら歩いていきます。悪気はありませんので、気軽に声をかけていただけたらありがたいです。今後ともよろしくお願いします。」